



みちくさ

放浪篇 No.10 平成 29 年 12 月 7 日

青空文庫の吉川英治作品を Kindle で読むこと



最近私は、もっぱら Amazon の Kindle という端末で読書をするようにしております。電子書籍だと、新作でも実際に本を買うよりはちょっとだけ安く購入ができます。それでも書籍代がけっこうな値段になることは間違いありません。普通に勤めていた頃のように、ぼんぼん新しい本を買うということは無くなりました。昔読んだあの作品をもう一度読みたいと思っても、本をすでに処

分した後だと、また購入するか図書館へ行かなければならないわけです。

そこで青空文庫が登場します。青空文庫とは、著者の没後 50 年を経過し、著作権の消滅した作品について、ボランティアにより文字おこしされたものです。そのためパソコン等では無料で読めるわけです。もちろん Kindle でも読めるわけですね。寝るときに読書することが多い私には、片手で持てる Kindle は大変貴重な存在です。(寝落ちしても読んでいたページが記憶されていることが使いやすいです)

青空文庫には、けっこう純日本文学作品が多いです。歴史好きの私は、とにかくその中から吉川英治を片端から読みあさっております。高校生ぐらいから読み始めて、ほとんど吉川英治の作品は読んでいるのですが、書籍としては手元に残っていませんので、青空文庫は大変重宝します。これまでに読んだリストを挙げてみると以下のようにになりました。

- ・上杉謙信 ・大谷刑部 ・黒田如水 ・剣の四君子 01～04
- ・三国志 01～12 ・私本太平記 01 ～13 ・新書太閤記 01 ～11 ・源頼朝
- ・宮本武蔵 01 ～08 ・新・平家物語 01 ～26 ・親鸞

太閤記や宮本武蔵はもう何回読んだかというくらいでした。また平家物語は、けっこう分冊数が多いので、書籍では購入していませんでした。今回改めて読破して堪能しました。

現在、「親鸞」を読んでおりますが、五木寛之の作品とはまた少し趣が違っている内容ですね。また「三国志」も 3 回目くらいの読書になりましたが、すっかり中身を忘れていたので、改めて新しい作品を読む感じで読書をすることができました。これ全部書籍で買っていたらけっこうな値段になると思いますが、青空文庫さまさまです。

藤沢周平作品もほとんど読み終わっているのですが、書籍が手元に残っていないので、こちらも早く青空文庫に登場しないかと思っています。(著作が切れるのはいつなのだろうか)

リハビリ生活



鎖骨のその後はどうなったか。毎日お風呂から上がった後、湿布を左肩に貼って寝ます。つまり、まだ違和感がとれないわけです。毎週 1 回のペースで、リハビリのために通院しております。労災の作業療法士によると、鎖骨の骨折だと、そんなにダメージは残るはずがないということなのですが、左腕がまだ完全に上がり切りません。おそらく複雑骨折したときに、腱を痛めているのではないかという予想です。そうすると完治までは時間がかかるだろうと。とほほですね。25 日に CT スキャンをとるとのことなので、このあたりまでにははっきりするでしょう。

ところで、金属を入れてビスで留めることは手術前に当然告知されましたが、手術後に入れた金属を抜く場合もあることを言われました。ただ、主治医は出来れば抜かない方がいいとい

うことをその時は言い添えました。あまりその時は気にはしていなかったのですが、ここまで来るとどうなるのだろう。中に入れた金属が暴れて動いたりしないのかな。飛行機に乗るときは、その都度傷を見せないと信用してもらえないのかも。等々・・・レントゲン写真を見ると、けっこうビスの大きさはえっ？と思うくらい大きいのです。それが縦や斜めに刺さっているのが映ります。単純にこの位置だと、肺に刺さるのでないのかと思うようなところにも映り込みます。この写真をみるだけで、金属は抜いた方がいいのかなあと悩みます。

ちなみに、現在職場にいる直属の上司も、若い頃に鎖骨骨折をし、金属を入れたそうですが、あまり固まらないうちに動かしたせいで、肩のあたりから金属がはみ出してきたそうで、事後に抜いたと教えられました。まあそれから医学も少しは進歩しているでしょうけれど、自然に同化するセラミックを入れるとか、そんなことはできないのでしょうかね。